

太陽光を利用した
私たちのイチゴを
町の特産品に

よこかわ けいすけ
横川 圭介

株式会社ネクサスファームおおくま 生産部主任

昭和61年（1986）、大熊町生まれ。
大学卒業後、富岡町の小売業に就職。震災後は避難等により仕事が続けられず退職。
2014年より大熊町の一時帰宅の仕事に就く。2016年より㈱ネクサスファーム
おおくま設立に向け、役場職員として働きながら研修を受ける。2018年より同社社員。

震災翌日の朝6時、町の広報車が巡回してきて「公民館に集合するように」とのアナウンスがありました。安否確認か何かだろうと思って向かうと、いきなりバスで三春の体育館に行くことに。結局4月までお世話になりました。今振り返って、あの体育館での避難生活が一番辛かったですね。テレビで原発の水蒸気爆発の映像を見たときには、体育館全体に絶望に近いような雰囲気が漂いました。避難した当初は2、3日で戻れると思っていたので飼い犬を残してきた人も多く、犬に会いに徒歩で大熊まで戻ろうとした人もいたほどです。我が家の犬は、幸いにも生き延びることができました。その後、会津若松市に移りましたが、会津の人たちの人柄の温かさに助けられて快適に暮らしていくことができました。現在はネクサスファームおおくまで、太陽光を利用した植物工場でイチゴを栽培する仕事をしています。ここでは「高設養液栽培」や「環境制御システム」によって、労働力の軽減や効率の良い栽培が行われています。かつて、大熊町にはサケやナシ、キウイなどの特産品がありました。これからの未来、私たちがつくるイチゴが町を代表する特産品になればと思っています。



ネクサスファームおおくまでは年間を通して
数種のイチゴが栽培されている